

第16回塙保己一賞表彰式・記念コンサート開催

～ご来場お待ちしております。～

埼玉県では郷土が生んだ偉人「塙保己一」のように、障害がありながらも不屈の努力を続け社会的に顕著な活躍をしている方やこれからの活躍が期待される方及び障害者を献身的に支援している方を表彰する塙保己一賞表彰式を下記のとおり開催します。【本庄市共催事業】

入場無料。事前申し込み不要です。
ぜひご来場ください。

日時 令和4年12月17日(土)
午後1時～3時30分
(正午開場)

会場 セルディホール

◇表彰式後の記念公演は明るく軽やかな響き… スティールパンバンドの演奏があります◇

午後2時20分頃(表彰式終了後)からは、カリブ海の島国発祥のドラム缶で作られた打楽器スティールパンを演奏するバンド2組が登場します。



明るく情熱的で
きらびやかな音色を
ぜひお楽しみください。

新型コロナウイルスの感染対策を行い開催します。状況により中止の場合は本庄市ホームページに掲載します。

受賞者の方々(主な受賞理由)

大賞:鈴木孝幸氏(65歳)(神奈川県座間市) 視覚障害2級。元パラリンピック選手であり、社会福祉法人日本視覚障害者団体連合関東ブロック協議会会長、同連合理事を歴任。長期間、視覚障害者団体のリーダーとして活躍。身体障害者や知的障害者の就労支援、スポーツにも熱心に取り組んでいる。

奨励賞:上田喬子氏(35歳)(東京都調布市) 視覚障害(全盲)。学生時代に学んだ音楽活動を活かして、声楽において高い評価を得るとともに、パソコンを使った楽譜作成ソフト「ピースコア」(点字楽譜入力の譜面を五線譜で表せるソフト)の指導を行い、点字楽譜の普及のために活動をしている。

貢献賞:佐藤 實氏(88歳)(東京都中野区) 視覚障害者が指先で触れて物の形などを確かめるための図や絵である「触図」の作成技法の開発において優れた功績を上げた。小中学校の点字教科書に、氏の触図が利用され、多くの視覚障害者が触図を理解し、職域の拡大にもつながっている。

貢献賞:鈴 和代氏(65歳)(埼玉県朝霞市) 埼玉県で20年以上点訳ボランティアとして活動。多岐にわたるジャンルの点訳や作図ソフトを用いた地図、グラフなどを触図化を行い、また、パソコン技術も教え、視覚障害者の学習や仕事を支えて社会で活躍するための支援を続けている。

塙先生フレーム切手 販売中です

昨年の塙先生没後二百周年を記念して作成、発売されたフレーム切手…顕彰会が建立した本庄早稲田駅前の銅像とおなじみの肖像画(座像)を84円切手にしたもので、切手を差し込む台紙には市内保木野にある塙先生の生家の写真と塙先生の生涯についての説明文が書かれています。

児玉文化会館と塙保己一記念館で販売しています。1セット600円です。ぜひご購入ください。



2点セットになっています

他団体の顕彰活動を紹介します

子ども群読劇 — 塙保己一物語劇化実行委員会



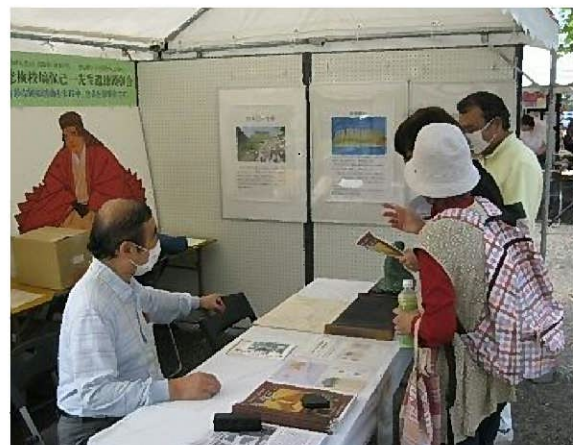
8月26日、深谷市の「ひとみ園」で稽古の成果を披露しました。

塙先生の精神、業績を広めたいという思いを持って活動されている心強い方々がいいます。今回は、そのような有志の団体についてご紹介します。

まずは、塙保己一物語劇化実行委員会(竹並万吉会長)です。同会は、これまで子ども群読劇を公演してきましたが、5月5日にははにぼんプラザで小学1年生から高校3年生の23人が劇を200人ほどの観客に披露しました。このほか、8月26日には深谷市の養護盲老人ホーム「ひとみ園」で公演しました。また、11月23日には本庄南小学校で、2月18日には金屋小学校で公演の予定です。

顕彰会広報活動

ふれ愛祭に参加しました



10月15日、本庄総合公園体育館庭を会場にふれ愛祭が開催されました。施設や地域のお年寄り、心身障害者、ボランティア等の創作品を出品、即売することにより障害のある方とない方の交流を図る目的のこの催しに顕彰会に参加し、塙先生のPRを行いました。「塙保己一は、よく知っていますよ」、「塙保己一記念館にも行ってきたよ」という、うれしい話や「少しは知っていたけど、あらためて勉強になった」という声もきかれました。

こども講談 — 「塙保己一を講談で聴く会」実行委員会

「塙保己一を講談で聴く会」実行委員会(阿奈靖雄会長)では今年10月2日に第9回講談会をはにぼんプラザで開催、このなかで市内小学4年生から6年生の3人の児童が塙先生に関連する題材の講談を披露しました。こども講談は今回が初の試みでしたが、満員の会場の中、子どもたちは立派にやり切りました。同時に講談や保己一賞受賞者によるフルート演奏など盛りだくさんの内容でした。





顕彰祭の様子

『塙保己一ことども』は、群書類従の版木を保管する公益社団法人「温故学会」が発行された小冊子です。温故学会のご協力をいただき、その中身を、会報に掲載させていただいています。子供からお年寄りまで読みやすく分かりやすいお話です。

塙保己一 ことども (提供：公益社団法人 温故学会)



理事長 齊藤幸一氏

保己一、江戸に旅立つ

保己一少年が江戸行きを決意したのは十五歳の時でした。これは、当道座(盲人一座)の座法によるもので、十五歳になると本人の意思により入門できるという定めがあったからです。とは言っても農民の息子ですから、お金もありませんし、その道の関係者を知る術もありません。

当時、武蔵国児玉・榛沢郡に領地を治めていた旗本に永島恭林という人がいました。中山道でも大きな宿場であった本庄付近は、絹商人の往来が盛んで江戸の情報を得ることができました。永島自身も江戸に行くことがあったので、少年をどこかの検校に入門させてみようと考えていたのかも知れません。

そして、保己一少年は道案内役とともに二人で出立します。その時同行した人物がのちに根岸肥前守鎮衛という名奉行となった人だという説があります。時代が違いますので事実ではありません。

さらに、江戸に到着した保己一は、行く当てもなく、雨に打たれて泣いていたところ、通りかかった内藤安房守が不憫に思い、屋敷に連れて帰ったという説もあります。これらは、後年の人々による創作で、江戸・四谷の雨富須賀一検校宅に事前の打ち合わせ通りに頼って行ったのです。

根岸肥前守と保己一の出世は、当時の人々に強い感銘を与えたので講談や説経節のネタとなり語り継がれ今日に至っています。

顕彰会への加入・継続をお願いいたします。

総検校塙保己一先生遺徳顕彰会は、平成19年7月26日に市民参加による顕彰会として発足いたしました。顕彰会では、塙先生の遺徳と事績を広く顕彰し、その精神の普及を図ります。毎年、命日の9月12日に塙先生の遺影に菊の花を捧げる顕彰祭を開催するほか、説明会など各種啓発事業を行っています。



みなさまのご加入・会員継続をお待ちしております。

年会費 個人会員 1口 1,000円、賛助会員(団体) 1口 10,000円

入会と会費納入の受付場所 本庄市役所4階生涯学習課と本庄市児玉文化会館(セルディ)アスパアこだま内の児玉公民館で受け付けています。

※ 郵便振替でもお申込みいただけます(ご希望の際には、下記へご連絡ください)。

発行 総検校塙保己一先生遺徳顕彰会

事務局 本庄市教育委員会 生涯学習課 本庄市児玉文化会館(セルディ)内

所在地 〒367-0216 埼玉県本庄市児玉町金屋728-2

電話 0495-72-8851 FAX 0495-72-8854

※点訳ボランティアグループ「ほきの六点会」の皆様により会報誌の点字翻訳版を作成して頂いています。ご希望の方は、事務局までご連絡ください。

ごあいさつ

木枯らしが通り過ぎて、冬将軍到来の時期となりました。昨今、温暖化といわれていますが、冬の寒さは日ごとに厳しくなります。皆様、ぜひご自愛ください。

さて、さる9月12日に開催しました塙先生遺徳顕彰祭では、急遽 会場を変更するなど ご迷惑をおかけいたしました。おかげをもちまして、無事、塙先生の命日をしのぶことができました。あらためてお礼申し上げます。新型コロナウイルス感染症が一旦落ち着いた時期であり、3年ぶりに保木野地区に住む金屋小学校児童たちが川田校長先生に引率されて参加し、催しに花を添えてくれました。

私も当会の事業部会からの推薦により講演をさせていただきました。演題は「塙先生没後二百周年記念顕彰活動を振り返る」です。記念事業としては、顕彰会でものがたりを作成、会員の皆様や小中学校に配布し、また、市では塙保己一賞の際に没後二百周年記念の催しとして渋沢栄一アンドロイドトークショーや本郷東大教授の講演などがありました。このほかにも非常に多くの方が塙先生顕彰の思いを持って講演、イベント参加、催しの開催など様々な活動に参加してくれました。私は、このことはぜひとも記録すべきであるし、みなさんに知っていただきたい — そう強く思い、語らせていただきました。これからも塙先生の顕彰が長続き、さらに広がっていくことを願わずにはられません。

みなさまにも今後とも顕彰活動へのご支援・ご協力をお願い申し上げます。

総検校塙保己一先生遺徳顕彰会 会長 吉田信解